

2159

徐文定公集

六

繪本寫真袋六



絵本寫畫袋六之卷目錄

晏平仲楚國小使して秋と辱めざれ當
晏子之御者う妻坐すりて生絶傷る當
吳王圖固健孫子良女兵と操りしる當
吳王丈卷子を放八象に遊ぶ當

孔子生智庫寶と辯どる當

并二顛圓の仁處節と改まる馬抄
智伯う馬豫晉侯欲報主夫仇と写

《寫錦袋六

一

孫援魏と車て雨と祈る當

孫援以革馬覆ひて馬鳴射罷消當

荀相如奏に文もる圖

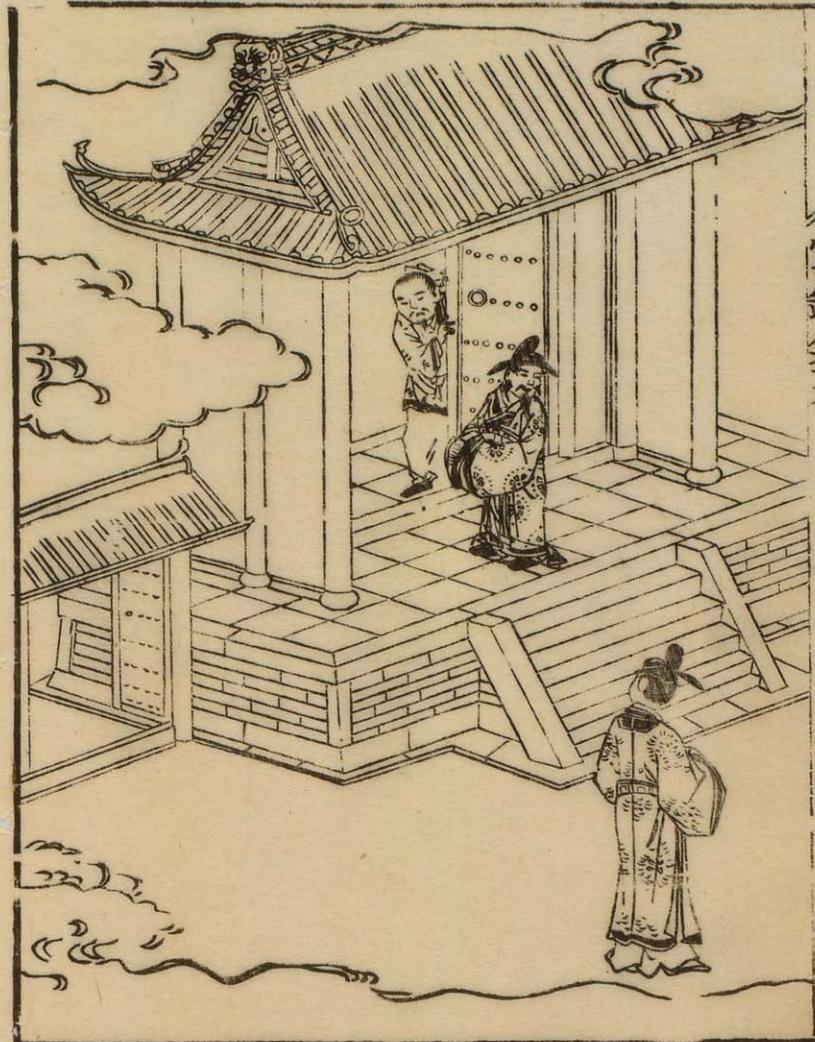
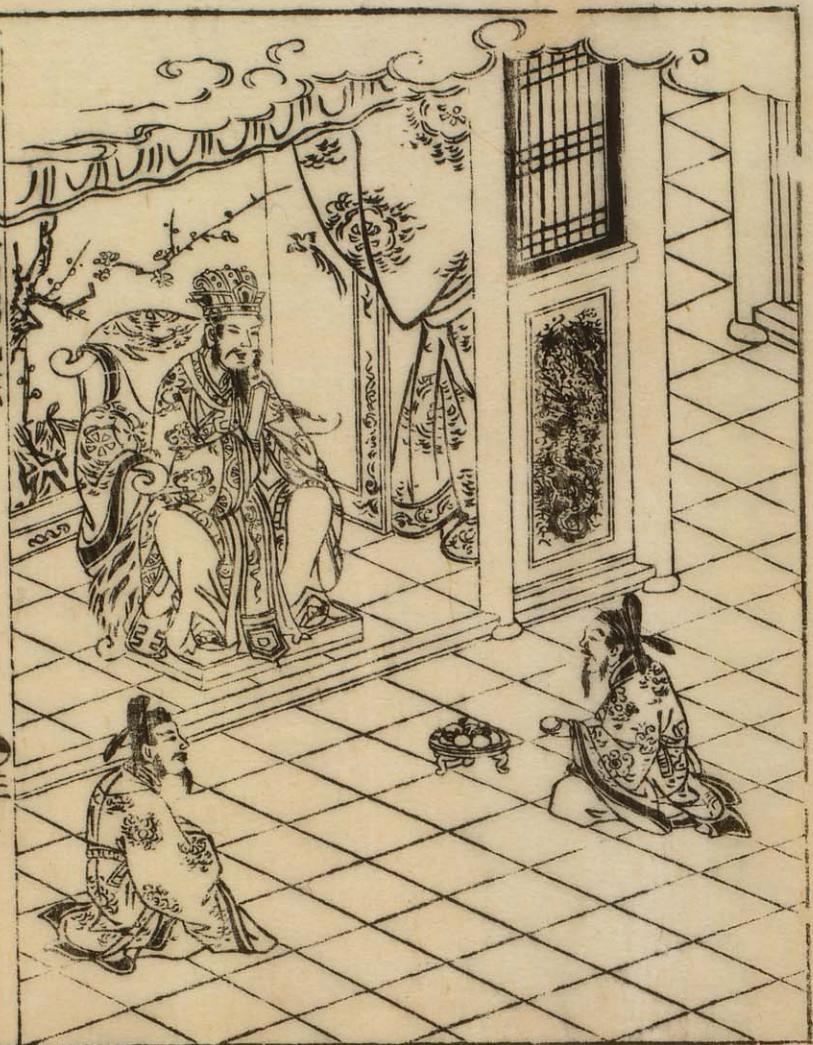
并下和う和光德の事

秦王与趙王會渑池とる當

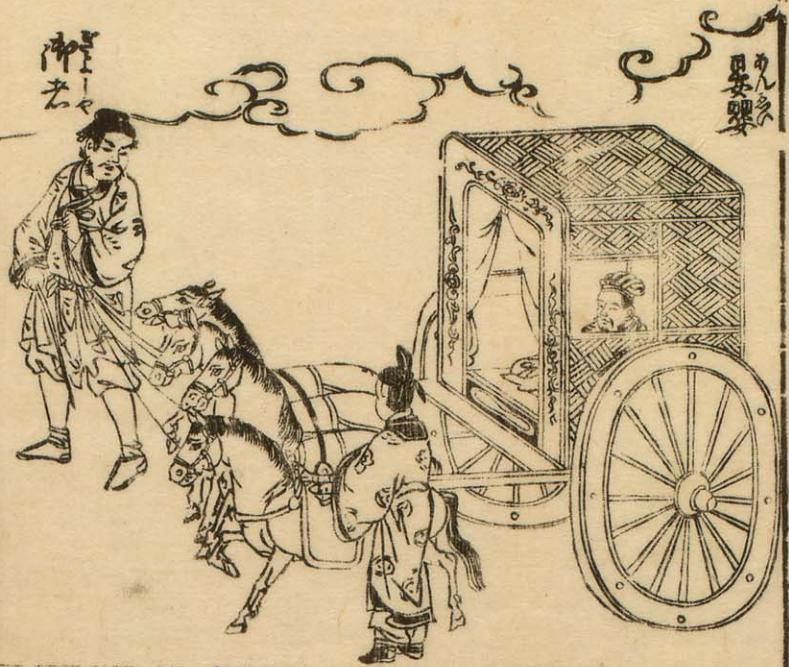
荀相如薦頗う來と見く車駕避る當

繪本寫室袋六之卷

婆平仲楚小文と缺圓と辱りあつた事
麻乃晏嬰寢室の事と謝せんが、あ楚がに假て假て假て假て
小玉て、中北風を吹くらむ地雲人傑まゝ小は東の美
地なり進むと、ひど一大門有て掩室せし傳承かづり
基と窓く縁一缺圓の奏者生達へ、引くト門へりへん
と、晏子すよ我と候るゆと、先て宣行稱嘆かり、缺圓
の假体也へとくいひれど、晏子小大門より入る御よ書
小玉で殺す人の傷亡係士左右お別てがまうくあく
御、こそとと晏子とく、通書一々、缺圓口と
遡く、楚の三軍を之伍秦が曰晏子の缺の賢士仰そらむ
煙をもじて、靈王以日省玉楊と稱す晏子度其以食と至る余
絶ふ晏子曰臣充无果と賜、以日楊并利と云うと楚人
取て辱じりと終て、過る時既と收め晏子宴と取ひ

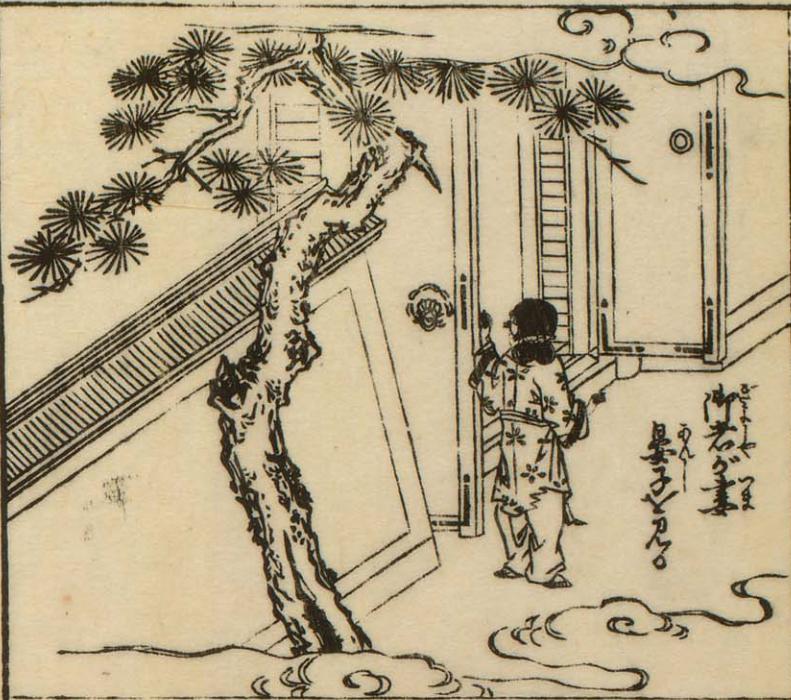


墨舉



墨举とりとも人の
儀御うきと見ゆるの
如きうき思ひうと思
ひをまことひくらへ
ひゆう代えられかうと
御ひ太うれしこれ
より折枝名は墨書
の年、そへて宣
と所考うりのよつて
かゝる墨举とお家
減り過りしおも
をえどいくつり
墨举生ハ墨举
字ハ平仲、號乃雪
相國守

墨举とる。

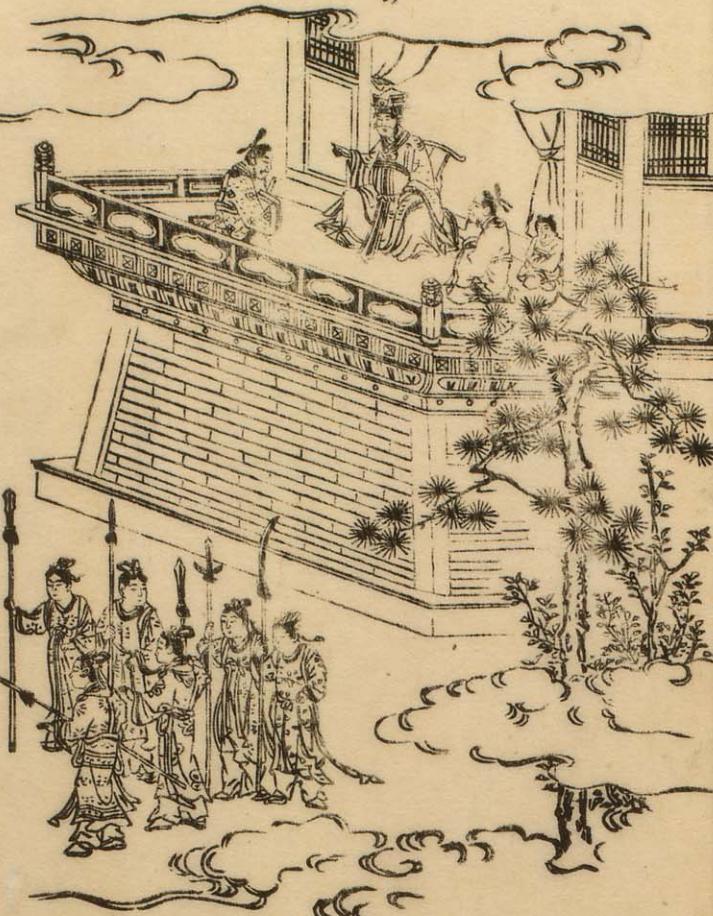


墨举仲一日午後時
墨举車馬のあ
門の間よりあまと聞
きを私揚くして射
しめの様す。勝ら
しもあらまと餘書
ゆきの様すへと聞
うけたまふ。秋空
の相として石竹僕よ
御色なり。今日
また秋色の如く

孫策之女嫁吳王

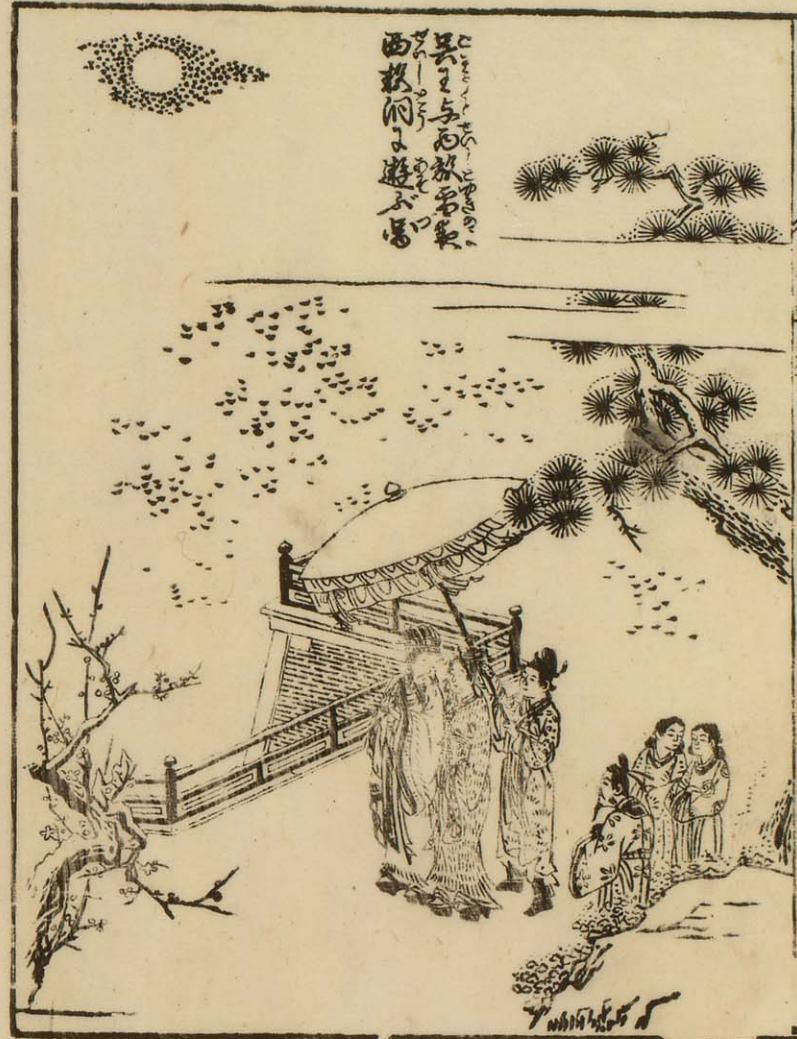


吳王迎嫁之觀



吳王楚越と後へ山伏安にて始蕪巻と遠く遊覽よ
船舟へまよひて二百里と全く観て六十人伏安一處に
船舟一桶小書き桜花令にて櫻斗と玉す。庭の美
景を草巻と極致しれど歎くねら湖の波にて春水
暖じ在り舟と海へたるも水渓あり庭小白山側で
四時むへ事へふや後もい春三年の絶と秋五年の
絶ゆくゆて春花せり玉門施慶の右記小揚る又寒岩山に西波洞
妙成産の側より秋舞りし時小西放をす。一ノ里
魏の山へ
玉門施慶の右記小揚る又寒岩山に西波洞
月華の院花池と春深香徑と肆き櫻泉井と櫻波煙
張建面於之に拏へ妃嬈にて春後と捕しめ八重に遊ぶ始葉
春百花園番水溪名放御於花池
桃李漫芳泉井櫻波煙
亭に逢て小酒宴より樹の邊毎小被着身の方に萬
物

とさうの花乃枝とわ西放と翠の桜と白月夜小百萬巻の
下に立ば孤花の貌す子小舟にて子う競りをり歌をうら
かしと夜の舟多ひ船と簫鼓と載西放とせに香波渓の蓮
賞す。女小蓮波探じ西放を蓮花とぞりとて快く
波渓の小湖るえ女中よりれにて起りてよしと舟中にて
抱入て曰く西放うち小湖るありてぬの度を計水に通がね
一と又漢の白珠と布幅もとく西放とぞ小舟一舟を
酒放と共雪岩山と登りて紫城とづは假睡室と處
空長秋舞巻絵一冬の霜の船着と酒放とぞ小船の
卷とぞく教士は宮女城にて車と一舟一舟をと焉め便び
吳王政事と理と畫表酒宴瀧樂試す。一國政事
生く教へて曰吳の東築付う世のふ一安そぞ已びざん
す後遂よ越王勾踐のあふ滅されり





孔子薄食と辯トヨア并御膳乃仁廟

楚の船主賈と争ひて其子括と争ひ利と覇業と擬ふと
争ひをも居候梁う同僚の孔仲尼へあれ重人なり首日
魯公これと争ひ争ひをも居り争ひに假せらばと通じ
國ふ遙く晉に至り大王孫よ霸とからひてされど連
主の政と換り家本曰孔丘は連儒すて財物に生せしと昭
乃曰我は側よ旅く一地と括ひより群臣を名紙者を失
却重人へ知ふ寢のそ人の微さるゆゑと云ふと彼臣
と彼一物の名とぞうひて試さんこそ別家本に一地とおせ孔
子ふ思へて向ひし孔子を一地とおせふと云ふと光ひ
子は曰これ薄の夷あり食をれべ宗廟きよ賓のとく家本
御膳とぞうひて船主に告と玉刻く群臣小膳ふらむと食ふ
赴きとぞ禮小答んとぞ唐と改めて孔子を途へし孔子楚よ
海のとぞ船主而安車御ひとぞ孔子の云お豫

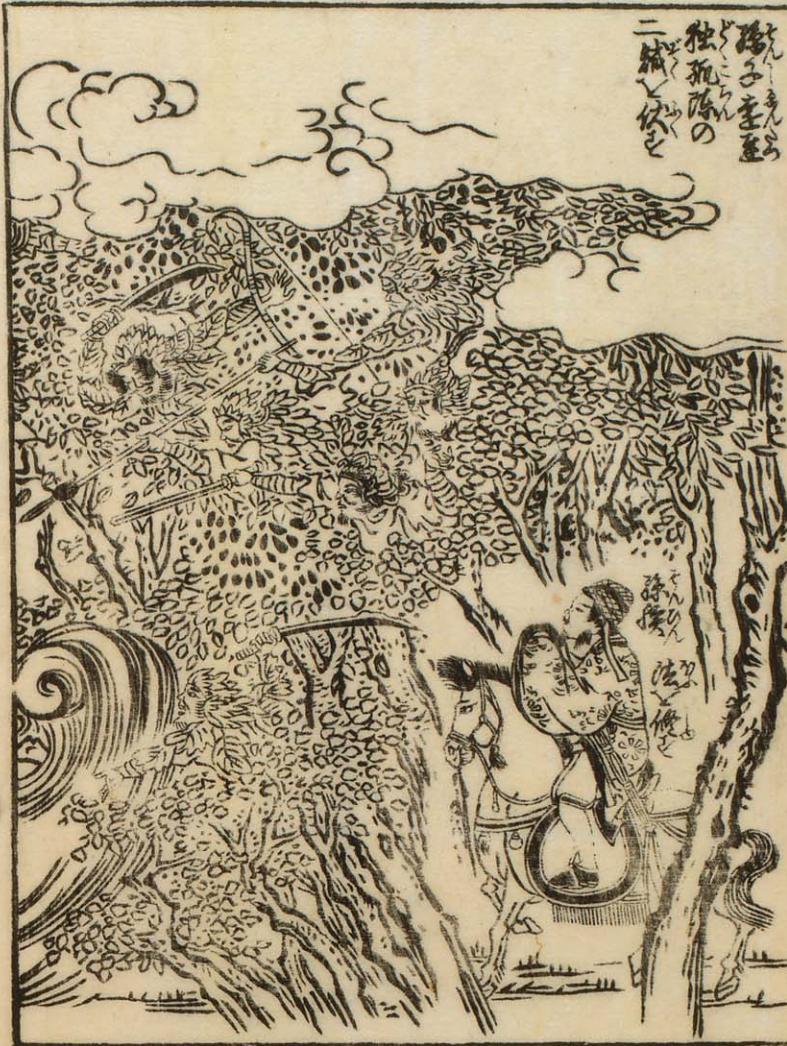
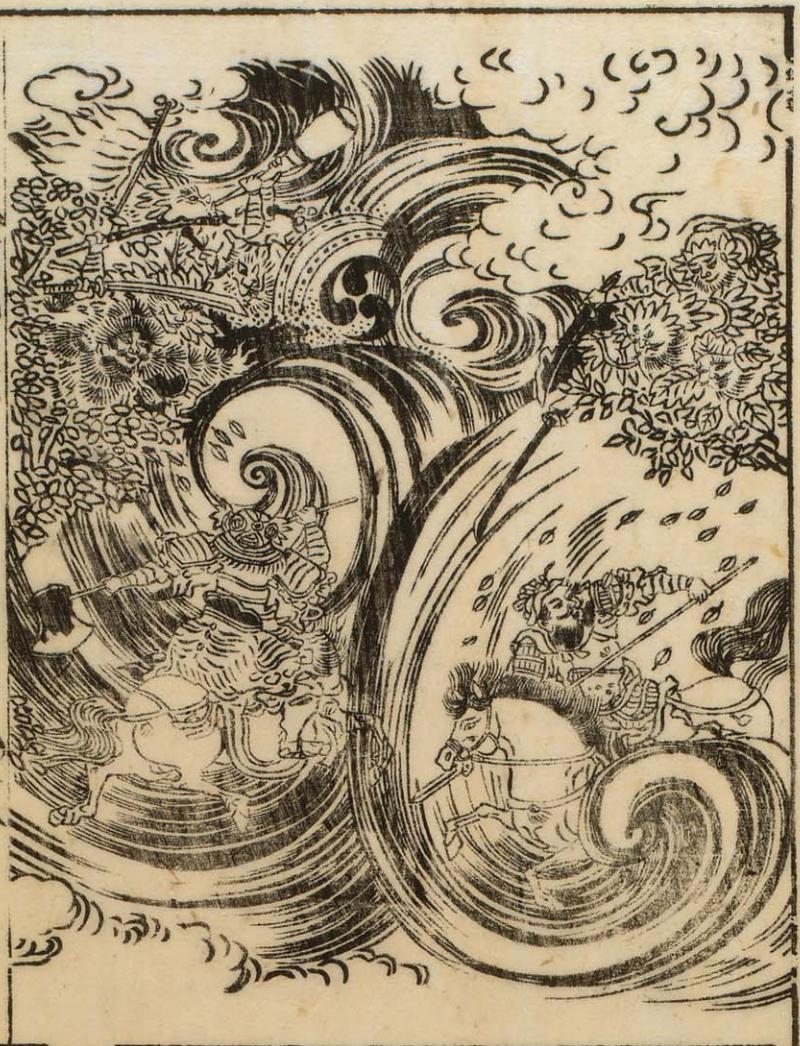
ちて曰く楚よ孔子と聞く鼎と振て我小國憲うんと
孔子と聞く楚小人をうかがひとて其兵と起して孔子と車
子路與ふと挺く我つんと孔子曰老子の己と聞くと告げ
穀を仁義と修して也俗と辛教さんやとぞ終と接く教不全
陳蔡の共退ること七日糧盡く弟子傍旁ろ子貢嘗ことこの
事とぞ聞くと子貢曰吾子の仁徳は天下第一とぞ
放小膳墨飯中（瀟る飯圓にて食ふ子貢升の急ろとぞ
乃て竊食つことぞひ孔子が教訓が飯と食ふと告げて曰仁人
塵土を拂ふとハ節と改つう孔子曰吾圓う仁徳は天下第一とぞ
それ汝故あんとぞ形圓と見て曰曠昔乎穀ふ先人哉我
と食ふ事へと孔子の曰く絶へ吾も亦これを食ふと圓
牛ぬ子曰吾と圓と後をも今日のとて惟と子貢急と嘆と
狼と





遊兵に極智伯と殺しを嘗め、遂に連軍の軍督に
 智伯は亡魂儂を仇と報せんと鉛銅の像を立て、
 が之が入らば、而て殺しを勅す。とこあり、則て廁の傍に金を
 近寄りて、射しとて、射をまつて、小糸をくちに、又は投げて、ひよ
 智伯は亡魂儂を、士大夫と殺さんと、極智伯を死んで、
 それと並びて、士大夫と殺せんと、義士たり。皆皆を
 人をもつて、炭と骨で、よりも食ふ鬼とぞ、極智伯と称す。
 その日、子うすと、て、極智伯は、事にて、追き章と、
 と、儂を回復せしむる事とあて、之を殺したて、心也と、板格の
 下に伏して、命をうけると、ひそかに、射しとて、射をまつて、
 退後と、至極の事と被さうしと、小糸とて、儂を、
 且、吾弟小治と殺と承れ京いのどし。今へゆ。一とて、士
 とて、右京は、之を、儂を、當て、之を、殺すと、嘗て、射の衣を抱く

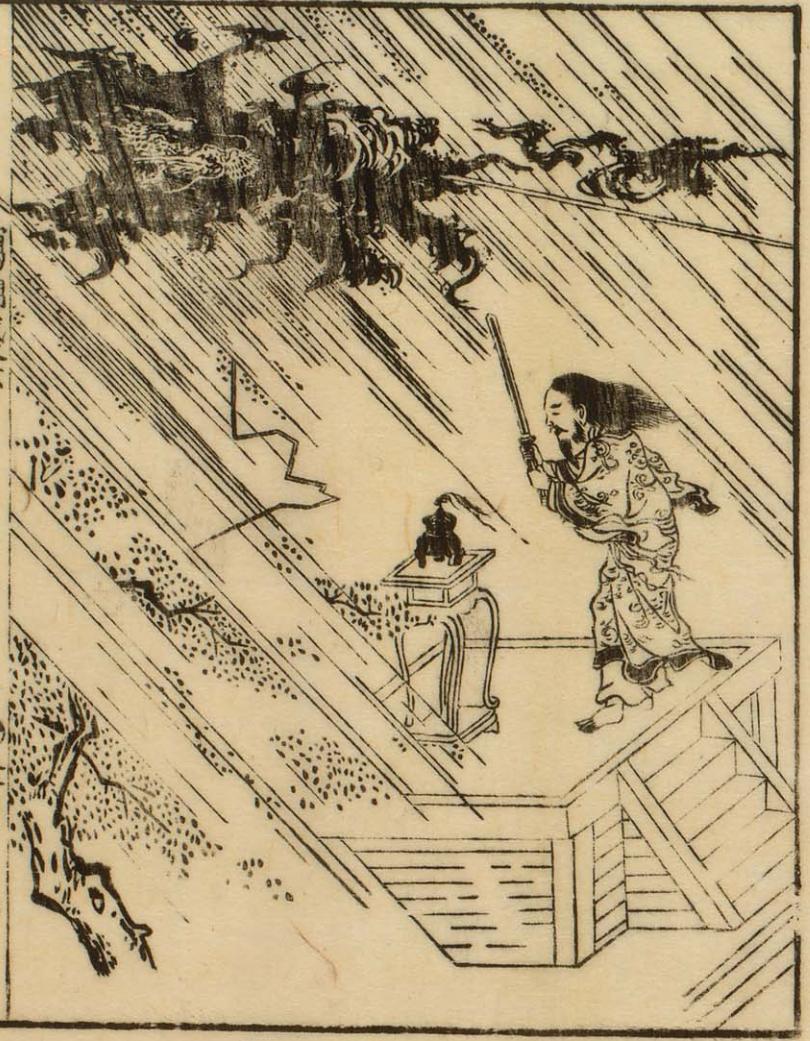
燐子も、射く仇と報ずる事とあて、不と極智伯をから、韓の
 色と、射で、かく、儂を、抱利く後、小治帝と、それより、極智伯
 と、歎く。極智伯と、是が、成合て、義と、重んじる事と、
 献後法術と、極智伯と、射しとて、後帝と、麻煩と、討す
 孫胸と、孫、まかみ、孫、う、章と、麻煩と、俱と、水麗御の忠臣
 と、射と、射法と、学法と、法術と、撫と、通達と、麻煩
 と、己小範の、お軍と、ある、魏王と、孫衡と、名と、恩君と、孫衡と、若
 く曰く、魏王と、麻煩あり、二子並立が、どうん。お、は、あ、小範
 陰と、之と、射法と、行て、射の、儀と、持す、毫毛を、射す
 と、臘毛持して、山下り、至陽山の下に、立す。小遠達、枯孤陳
 と、之と、二人の、壘城を、射す。而て、率て、射し、差す。射す。射す。
 鋼矢と、投げて、宿せん。之を、後帝と、法術と、射す。射す。射す。
 中、次へ、而、續る。と、續く。之と、即ち、射す。射す。射す。
 之と、機木と、之と、射す。之と、令教と、射す。射す。射す。
 之と、機木と、之と、射す。之と、令教と、射す。射す。射す。



御みまほ
独立院の
二城と候

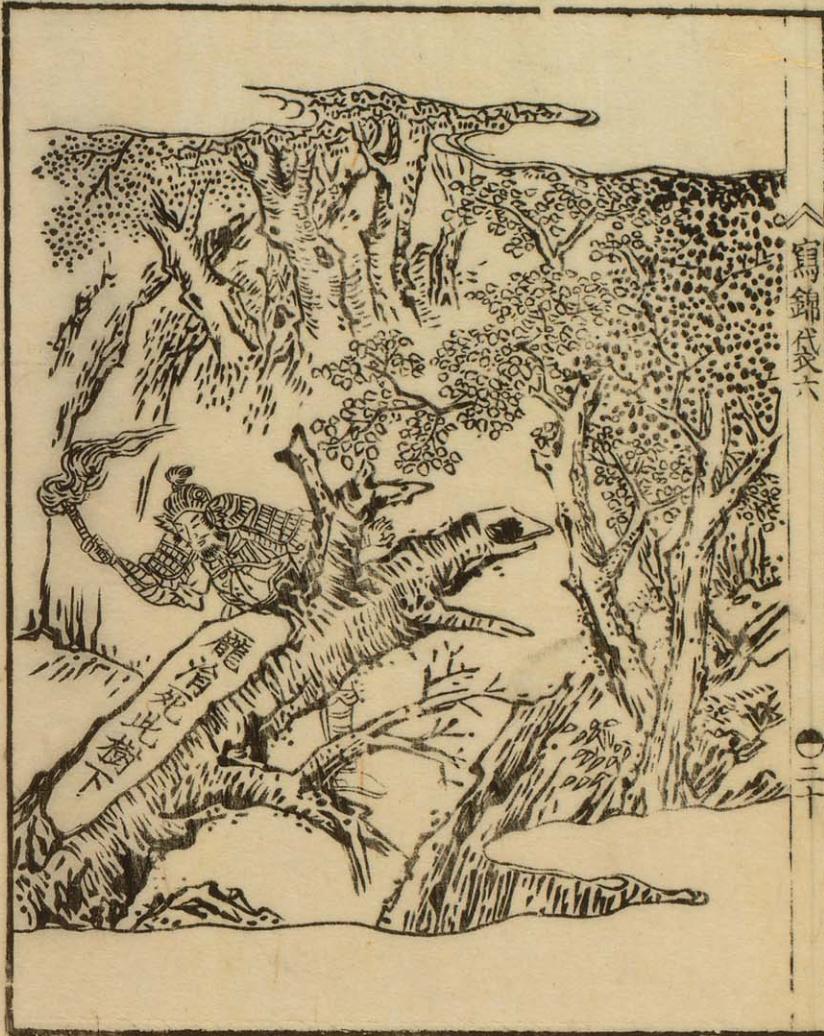
せんとくらす事と揚て一念ゆ。と云徐侯猶活
 金ぞれじ天時幸ふえのじに二城既破。裨一云も徐侯又
 乎其城をりんと奪へる。八隊と布二城敗る。じく
 来うる際へてあるう紙づき徐侯又毛とくの次の書文
 織本の徐侯事と云候りて假撰。布列。二城假索
 かわうて個例され子是傷こと。ひは過よ伏姫。一今
 徐侯魏より惠主に見ゆ。王兵で中軍を支。小封。一龜浦
 とお孫そと勑と與さんとと遇り。しひ時逢中大旱。而
 草木焦葉。百姓裏も苦ひ。振りく風と降々。嘵の術試
 ひ。久の内。而て龜浦。魏。一龜浦。而て白須郎ら。一
 僕。命試學。而て魏。休治。一龜浦。教と賣劍。とて酒。又豪
 法と行ふ。酒更して雲起。風生。一太西。御と通く。微
 級百姓。大は收。小魏。大は國。一徐侯。却て。魏。大は僧
 及。參。軍。歸。奉。之。而。龜。浦。と。徐。侯。よ。及。る。と。之。の。事。

乃候と徐とて。もと。而。是。破。断。て。され。て。而。く。は。時。歎。の。便。寧。了
 癸。事。廢。と。徐。侯。と。車。に。坐。て。憲。と。憲。と。御。の。威。と。長。法。と。向
 く。これ。と。師。と。ひ。も。後。魏。軍。韓。と。代。韓。敵。い。と。小。韓。國。と。細
 回。と。伏。ね。と。徐。侯。と。元。帥。と。と。韓。と。援。と。ひ。徐。侯。回。臺
 領。と。而。小。魏。の。都。大。渠。と。攻。魏。の。む。龜。浦。と。と。ま。て。韓。と
 去。と。大。渠。に。向。り。每。ノ。回。正。あ。て。然。り。く。と。徐。み。向。之。法。か
 云。百。里。か。て。趙。と。利。と。と。お。と。頭。く。と。云。ア。魏。長。う。了
 跡。身。の。モ。と。て。毎。ノ。毎。と。持。ん。と。今。我。柔。弱。と。て。傍。一
 そ。遠。密。小。魏。と。帥。と。被。ひ。龜。浦。と。率。て。歎。の。隊。と。久
 抱。絆。ん。と。そ。と。健。と。而。小。追。ふ。而。日。徐。侯。退。と。千。里
 行。て。隊。と。れ。す。方。の。塞。と。高。て。去。而。龜。浦。と。と。而。て。塞。乃
 残。ど。う。と。乃。て。大。よ。あ。ん。て。歎。軍。と。わ。け。と。士。卒。亡。い。と。ま
 なり。と。乃。軍。と。乗。て。残。る。の。兵。と。率。い。と。進。と。日。徐。子。も。乃





龜大將龍消

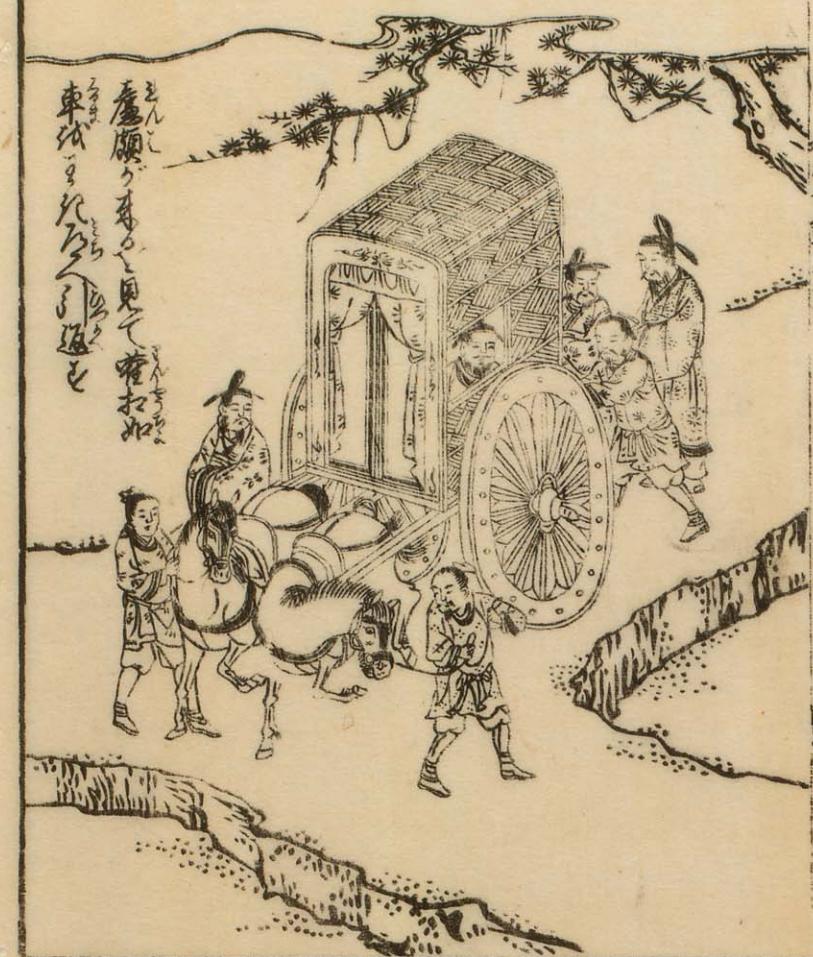


振り度り書ふる後より下ひては後（金）樹葉
 あり別に善利と櫻の万葉と後伏至（大樹）と被
 作（一）と塞（木）本作振り白て施消は樹下に死せん
 事（一）伏勢にて他して曰く日暮くい樹下に火の光奉る
 同小ら等（一）こそ又二方の窓御て追く施消連は追
 がるを以て吹び落し徳の感曰承ふる後（木）の掩也りて追
 ふる後（木）の以て追て天日己小寄くり歎軍計塞深（木）
 通（木）と之を小さく追下て追て追（木）と施消也
 曰今長追（木）と之を小さく追下て追て追（木）と施消也
 通（木）と之を小さく追下て追て追（木）と施消也
 軍圓系（木）と之を大本と塞て通追と鹿（木）と圓あつあつする
 と之を大本と塞て通追と鹿（木）と圓あつあつする
 き我則（木）之を徐に中と之を追く軍と圓と下と云ひ是ふ畢
 ざれの軍方等と俱よ登川を若鶴の下（木）と魏軍大

礼と紙を施消痛半面て智窮り墨と墨（墨）名と紙せりと
 て三つともて死と歎軍揚よ争てとくと難軍と争り
 難のを子中と争（木）と争りびとて徐像（木）天下にあくられ
 世を失ふ大將の孫と大漢を夏と更に冠軍と稱て參軍海
 南相如（木）之を第并下和玉の事

蔡（木）お水の趙の官志令修堅（木）が合へり趙王嘗て和夷
 墓（木）と之をへり代秦の服と傳すて趙の惠文王次妻
 遂（木）と秦の子ふ難の嫌（木）と之を小易致つんと云
 諸主群臣と議（木）と曰ひて何と爲くと之を小易致つんと云
 てく歎もんめ又かほんじ秦長城少と攻撃十ニ箇相
 おう白くは壁を折て秦に之と不 必と云と秦に當ひと
 てみ跡と迹に入合へる處と之を金と之を趙と
 て脇玉と見く寡君秦趙の好と縫んと與ひて賜





旗を秦立壁^{まき}。然^まよ天子下^さ。大將軍^{おほな}軍^{ぐん}分^わり。とて壁^かを
立^{たて}と。すす事^{こと}と云ひ。蘭相如^{らんじょうに}迎^{むか}え。秦王に告^く。曰^ひ
「國^{くに}を立^{たて}なつといふも。微^{すこ}細^{さい}あへ。臣是^しと大王が不^{そん}。秦王之壁^{くわい}蘭
ねね^ね。」^と也^は。趙^あに^お、蘭^{ねね}も^とゆく。連^{つづ}き敵^{てき}の核^{かく}が、高^{たか}う。色^{いろ}を變^かわ
れ^な。也^は。冠^{かん}を衛^え。秦王と眼^{まなこ}。とく。天王書^{しょ}と、承^{うけ}て。書^しの
代^{だい}。十^じ五^ご城^{じゆ}と。不^{そん}となり。宣^{あらわ}かをく。か王^{おう}諭^{しゆ}う。事^{こと}。五日
ゆく。五^ご日^ごと。金^{きん}版^{ばん}。小見^{こみ}。時^{とき}。とく。と。備^{そなへ}。もと。備^{そなへ}。
備^{そなへ}。もと。備^{そなへ}。と。所^{ところ}。よ。壁^か。と。淮^{さい}。び。大王威勢^{おうぎせ}。と。く
御^ご臣^{しん}と。被^は。爲^{ため}。頭^{かし}。と。大^{だい}。公^{こう}。枝^え。擎^{くわく}碑^ひ。べ^い。と。云^い。秦王玉^{たま}と
御^ご事^{こと}と。與^{とも}。と。趙^あ。蘭^{ねね}。謝^{あやま}して。我^わ亦^{また}。も。つ。を。被^は。う。と
士^し。兵^{ひょう}。度^ど。小見^{こみ}。と。ぬ。人^{ひと}と。被^は。う。と
と。九^く賓^{ひん}の礼^{れい}と。從^つ。有^あり。と。よ。今^{いま}と。よ。秦王趙^あ
蘭^{ねね}。が。九^く賓^{ひん}の禮^{れい}と。從^つ。有^あり。と。よ。今^{いま}と。よ。秦王趙^あ
蘭^{ねね}。が。九^く賓^{ひん}の禮^{れい}と。從^つ。有^あり。と。よ。今^{いま}と。よ。秦王趙^あ
蘭^{ねね}。が。九^く賓^{ひん}の禮^{れい}と。從^つ。有^あり。と。よ。今^{いま}と。よ。秦王趙^あ

小儀^{ごひ}す。ひ。趙^あ於^お汝^な。汝^な老^お。李父^{りふ}と。の。志^し。お^もと。情^{じやう}。と。徑^へう
銷^{きゆう}。ゆく。し。秦王亦^{また}。も。う。と。又。目^め。く。趙^あ。如^{ごと}。而^{めで}。壁^かと
御^ごく。し。趙^あ。如^{ごと}。船^{ふね}。小^こ。獨^{ひとり}。と。秦^{しん}。繼^{つづ}。云^い。大^{だい}。公^{こう}。三^{さん}。作^{つく}
焉^{いな}。も。書^か。物^{もの}。未^まと。要^{いざな}く。も。う。今^{いま}。今^{いま}。大^{だい}。王^{おう}。被^は。も。趙^あ
の。袖^{そで}。を。仰^{あお}。而^{めで}。目^め。あて。と。被^は。王^{おう}。次^{つぎ}。ま^ま。と。大^{だい}。王^{おう}。と。趙^あ
と。あり。ひ。沿^{あらわ}。と。先^{さき}。隊^{たい}。よ。入^い。而^{めで}。之^の。趙^あ。王^{おう}。と。お^も
と。殺^{ころ}。と。王^{おう}。の。の。く。こ。と。殺^{ころ}。と。大^{だい}。公^{こう}。等^{たう}。よ。い。趙^あ。如^{ごと}
被^は。と。只^{ただ}。遇^あ。と。神^{かみ}。し。大^{だい}。趙^あ。量^{うる}。一^{いつ}壁^か。と。之^の。秦^{しん}
と。被^は。と。遂^と。趙^あ。如^{ごと}。數^{かず}。と。數^{かず}。と。神^{かみ}。し。趙^あ。如^{ごと}
之^の。は。趙^あ。大^{だい}。王^{おう}。被^は。趙^あ。如^{ごと}。射^さ。と。射^さ。と。上^う。を。支^さ。と。

折^{おり}。は。和^わ光^{くわい}の。壁^か。と。や。ハ。首^{くび}。年^{とし}。楚^{ちく}。人^{ひと}。市^{いち}。和^わ。と。云^い。老^お。アリ。
楚^{ちく}の。前^{まへ}。山^{さん}。よ。於^お。一^{いつ}。川^{かわ}の。漢^{かん}。と。極^{きわ}。楚^{ちく}。厚^{あつ}。居^ゐ。屬^{する}。属^{する}。

とて下和らの匂と別ふ。又壁の秦王に缺る。民を
救ひて其工に立役。ひづかきるからうとのへきまく下和
の匂と別る。下和與の匂といふ。あつての殊とあふ
ぬなく、自士と云く。けりとそと。漢と抱て荆山の下に
寝る。之後、此趙の文王に奉ぐ。文王が工と櫛で磨じ
ゆく。小寒して光ぬと出。晴れと興むる。自力で「ねえ
あはれ」と聲の表光の聲と云。趙の恵文王が候と云。可
能摺重より是と云ふ。後、小秦天下と一統すと新修
即位。併びとて御事と云へば、これとなし。
秦王又趙王と如のれ。懶池より命せん事。ハ、趙王。趙おぬ
と云。懶池より秦王と云。秦王酒教名。及碑く曰
寡人。趙王の音樂と始めりと。されば今日致く。ハ、趙縣と故
にて樂奏。趙王辭。と云。とあつて。琴と鼓く
秦の歴史。秦と云。秦の年月日。秦王懶池の志。趙王の

妻と鼓。と云く。趙王と辱しり。董ねぬ。と云く。却く因
趙王をして小妻と鼓す。秦王も又銅と擊て秦の音をかく
歌ひ。秦王歌く。涙が流。董おぬを喜んで銅と進む。秦王
の歌よ。歌づくいく。太王も銅と擊く。どんを立ごと。おふ
桿う頭の曲と云く。太王に御ぐ。秦王已事と語むと。銅と
桿牛と鶴の董おぬ趙の歴史と云て。某れ年月日。趙王懶池
の志。して秦王親と。桿牛と。歌りひと書紀す。秦王既に。おふ
趙と。楊事なく。酒宴。頗る。趙王圓小ゆ。秦王の他せん
て。外ぬ。もく。共と。設て。お約。と。と。秦う。し。共と。動と
事なし。と。と。と。董おぬ。めう。切の大きと。おとて。と。漏と
う。お。處頗る。と。小處。し。處頗る。と。我趙の大ね。と。と
城と。政野。小城。い。方。神と。分して。大而わ。董おぬ。經口。と
と。佐。承。と。小處。と。も。と。董おぬ。秦。櫻。歌。と。歌。と
者。是。が。ト。に。處。ら。ん。事。が。董。董。董。お。ぬ。と。と。と。と。

厚うりんと葦ねぬまく歳てむか矣せむる頃初より
海より葦ねぬへ病と称じて薦故と列わす。そのす日葦ね
ぬ出づふ處故が事ふとて車外引く遡医者葦ね
ぬ出づるを人等従ひて活勞焉に車ふとて思がる。義と
慕びゆけり。今薦頗るをうす小疾遡医もく四つ
車れをしんハ何ぞや。葦ねぬがいもくこれ秦王に之遣せば
毛夷臣と厚うめく。何ぞ今薦の軍と異せん。余がす
漢秦の兵と遙かくつまゝの薦故と稱ともどゆくな。今お
人穿ひ革りて毛物ひとりふれすん我くみどくきりうる家
の急と先あ。私のわき後ふらなりと薦故乞く彼へ
はて大よ慚。葦ねぬう門ひ身ひ自らとあり。敬とあへ
て脛と脚一遡よねくもひもうんで生死とゆくもうの
まづうとうせう